

令和5年度第2回一関図書館協議会 会議録

- 1 会議名 令和5年度第2回一関市図書館協議会
- 2 開催日時 令和6年3月26日(火)午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関図書館1階学習室
- 4 出席者
 - (1) 委員 山村淳委員、二階堂美恵委員、都澤喜久子委員、藤野裕委員、金里徹委員、高橋澄夫委員、鈴木宏委員、千葉亜矢子委員、鈴木純香委員、佐々木香委員、菅原美智江委員、千葉正委員、菅原奈々子委員、那須照市委員(会長)、千田広子委員、菅原寿委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、藤倉忠光一関図書館長、八重樫裕之花泉図書館長、岩渕敏郎大東図書館長、伊藤秀一千厩図書館長、佐藤鉄也東山図書館長、千葉伸室根図書館長、菊地和哉川崎図書館長、梁田潤藤沢図書館長、佐藤俊憲一関図書館副館長兼企画管理係長、西村ミドリ一関図書館副館長兼資料サービス係長
- 5 議題
 - (1) 令和5年度一関市立図書館事業報告(進捗状況)について
 - (2) 令和6年度事業計画の策定について(諮問事項)
 - (3) 移動図書館車サービス全域化計画について
 - (4) 一関市立図書館創立100周年、一関図書館新館開館10周年記念事業について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名
- 8 挨拶

(1) 時枝教育長

令和6年度がまもなくスタートしようとしているが、教育委員会の所管する全ての施策を網羅した教育委員会の令和6年度教育行政方針を定め、2月の議会で表明しているところ。

その中で4つの重点プロジェクトを組んでいるが、その一つに「ことばを大切にす
る教育プロジェクト」を掲げている。

このプロジェクトは、「ことばと読書」「ことばの響き」「ことばの先人」を柱とし、

子供たちに語彙の豊かさ、ことばの感性、心の豊かさを育むことを目指すものである。

このことは、小中学校などではイメージできると思うが、ともに学び、まちと人をつくるという点で、社会教育の面でも大切にしたいと思っている。

そういうところから学校教育においても、社会教育においても、一関市のまちを作っていくという視点でも全てにおいて、図書館の充実というのは非常に大切であると捉えている。

今年1月30日の岩手日日に、一関市の市立図書館は全国の同規模の自治体の中で蔵書冊数が1位であるという記事が掲載され、また、県内の自治体で一番貸出しが多いという状況がずっと続いている。

これは多くの市民の方に利用されている、あるいは、多くの市民の方が図書館を必要としているということの具体の表れであると考えている。

本年は一関市立図書館が100周年、一関図書館の新館開館10周年の節目に当たるということで、後ほど事務局から説明があるが、この機会に市民サービスの向上の観点から、移動図書館車のサービスを市の全域に拡大していくという取り組みながら、市民のニーズに合わせていきたいと思っている。

一方で、一関市の大きな課題として、人口減少が挙げられており、児童生徒についても同じような状況である。

令和6年度は統合を予定してはいないが、令和5年度と6年度を学年で比べると200人ぐらい児童生徒が減少している。

これは児童生徒以外でも、成人についても同じ状況が続いている。人口は減っていく中で、それに伴ってまた予算面も制限される。そういう状況を加味しながら、1人1人の市民の方ができるだけより良い読書環境の中で、文化的な生活を送ることができるような取組みを考えていかなければならないと思っている。

そういう状況を踏まえ、本日は令和5年度の報告と令和6年度の計画について意見交換を設定しているので、よろしくお願ひしたい。皆様からの貴重なご意見を今後の取組に活かし、より良い図書館運営を目指していこうと思う。

(2) 那須照市会長

皆さんには市立図書館各地域館の図書館運営協議会の発言内容も配付され、お目通しをなさったかと思う。

市立図書館の基本目標は、市民の心を豊かに満たし、市民とともに成長する図書館の実現を目指している。各図書館の運営協議会では、活発に意見交換がなされたこと

がわかる。

花泉では開館 10 周年記念事業が行われ、にぎわう中で初めて図書館に足を運んだ人、そのほか各館の状況を見ると、文化祭への参加、市民センターとの連携、大東の移動図書館車が更新されること、企画展が人気を博していること、音楽の日や映画会が人気を集めているとともに、ほかの図書館でも映画会ができないかという要望が出されていたようである。

また、来年度には図書館が創設 100 年、今の一関図書館の建替え 10 年の記念事業を計画しているようであるが、どのようなことをするのかという質問が出されていた。

本日は次第にあるが、令和 6 年度から実施する移動図書館車サービスの全域化計画、100 周年記念事業の説明が盛り込まれている。

それを含め、6 年度の事業計画に合わせて忌憚のない意見を皆さんから出していただけたらと思う。

9 諮 問

一関図書館長から会長に対し、図書館法第 14 条第 2 項及び一関市図書館条例施行規則第 16 条の規定により、令和 6 年度事業計画の策定について諮問した。

10 審議内容

(1) 令和 5 年度一関市立図書館事業報告（進捗状況）について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 大東図書館について、館内の配置や各年代に合わせた企画展示など工夫されていて、遊び心と温かさが感じられる。以前のすっきりした図書館とは違って、明るい変化を感じる。館長が先に立って、関係施設や図書館スタッフ、利用者の声に耳を傾け、前年度までの事業を洗い直し、実施可能なところはまず試してみるという行動力と改革力などのおかげだと、改めてありがたく思っているところ。

同じように地域に良質な図書館サービスを根付かせるため、どの図書館も館内で行う事業に加え、館外へ積極的に出向く出張事業など工夫していた。

その具体的な様子が発言の資料から読み取れて、各館長を始め、職員の皆さんに頭が下がるものと思った。今後もよろしく願います。

(2) 令和 6 年度事業計画の策定について（諮問事項）

委員 各図書館の運営協議会の内容を拝見し、(利用実績の) 数字を追いかけるだけでなく、中身ではないかという意見が出ていたように思う。

人口が少なくなる、子供たちが少なくなるという中で、これから一体どういうふうにまちづくり、それから人づくりをしていけばいいのかと考えていた。

花泉図書館 10 周年記念イベントのときに、初めて来た、図書館はこんなところだったんだ、という人がいて大変驚いた。図書館にとにかく足を運んでもらうことも大切だと思った。

図書館ではすごく工夫されている。スタッフの方たちはすごく大変だろうなと思うが、これから人口が減少していく中で、どのように取り組んでいくのかが大きな課題ではないのかと感じている。

委員 自分の所属する図書館運営協議会の中でも人口減少の話は出ていた。本年度の入館者数や貸出冊数の話もあったが、人口はどんどん減っていくので、入館者数や貸出冊数も減っていくという中で、ただ人数や冊数だけでなく考えていく必要があるのではないかという話や、人口減少の中、図書館をどうしていくのかという長期ビジョンが必要ではないかとの意見もあった。

資料の説明の中で、小学 3～5 年生を対象に電子図書館使い方講座を、タブレットを使用して行ったという紹介があり、私も学校に勤務しており、タブレットを活用した学習を進めているので、今後子供たちに電子図書館の使い方を広めていくと、活用が広まるのではと感じた。

委員 職員は皆すごくよく頑張っているし、各館がお互いに交流し、いい事業を取り入れていると感じた。続けていただきたい。

電子図書について、導入の度に購入の割合が話題に出ていたように思う。紙の図書は残るが、電子図書は次々に新しくしていかなければならない。その兼ね合いを見ながら広めていかなければならない。

委員 皆同じ考えだと感じた。入館者数、貸出数という数字が最終的に出てくるが、それも大事だと思うが、図書館は住民にとって何かほっとする場というか、この地域の中で、皆が安心して過ごせるスペースであり、大切な場所になっているということ非常に感じる。

そういった意味で、この地域の中で欠かせない図書館を大切にしていってほしい。予算も厳しいとは思いますが、よろしく願いしたい。

委員 利用者は人口比率を考えた方がいいのではないか、という話があった。

また、委員の中からは、このような企画展をたくさん行っていることは、やはりすごいということをお話されており、その中で東山でも映画鑑賞ができないか、

と話も出ていた。

他の地区の図書館では実施しているということなので、ぜひとも取り入れてほしいということと、2年後に狛鼻溪が100周年を迎えるということで、それに併せたイベントを実施していければという話があった。

また、東山ではマルシェを頻繁に行っており、そこでやまゆり号を出展させていただいている。来る人を待つだけでなく、こちらから出向いていき、その場を作るというようなことも今後より活発に行けばいいのではないかとという前向きな話が沢山出された。

委員 他の各図書館の各企画のいいところを取り入れて自館でも行う、というのは非常に効果的である、という意見があった。

特に今年は、今年生まれの作曲家のCDを置かせていただき、それが大変好評であった。

その他に、入館者数や貸出冊数がなかなか伸びないところもあったが、室根図書館で新規登録者が昨年度比で倍増している。その理由は、国際医療専門学校と連携し、その学生への貸出しということで数値が伸びたという話であった。

小中学校や幼稚園とは連携し結び付いているが、専門学校などとの連携や、大きな企業、事業所との連携も今後大事になっていくのではないかとという話があった。

また、室根図書館ですっと実施しているPOPコンテストが10周年になるということで、小・中学生が喜んで参加している企画であることから、ぜひこれについても、今後も継続し、より幅を広げて行ってほしい。小学校の校長先生からは、プラスアルファということで、来年度は子供たち1人1人が発表できるような形の企画を取り組んでいくなど充実させていきたいというようなお話もあった。

委員 川崎町の人口は、実は一関市全体の3%しかないが、その中において図書館が特別な存在としてその存在感を増していると感じている。

最近は大規模な改修工事が終わり、ハードの方も整えられ、それから蔵書についても、以前から借りて読みたくなる本がたくさんある図書館だということで、ソフトの充実と相まって、これからコロナの制限が緩和されるところで、より本領を発揮できる図書館ではないかと思っている。ぜひ近くにお越しの際は川崎図書館においでいただきたい

一関市の図書館全体の方に対して望むことは、令和6年度は情報リテラシーを磨く場としての存在感を高めていただきたい。

既に行われているとは思いますが、さまざまな図書館を取り巻く状況を考えた時、図書館の意義を考えた時、住民に情報リテラシーを磨いていただくということをもっとフォーカスされる令和6年であってほしいと思う。

委員 藤沢図書館については大幅に入館者数と貸出冊数が伸びたが、入館者数を計測するカウンターの不調の話が以前からされており、今回も来館者カウンターを図書館入り口だけでなく文化センターのロビーにも配置したところ、図書館は企画展を図書館内だけでなくロビーでも開催し、またロビーには本棚も置かれているので、文化センターに来られた方がロビーの展示もご覧になるなどで数字が伸びているのではないかと思う。

小中学校やこども園に関する話だと、ほぼ全学年でブックトークを行ったり、2年生の図書館見学でお邪魔させていただいている。中学校だと社会科体験で司書の仕事をさせていただいたりしている。

おはなし会は、予定変更にも臨機応変に即時対応させていただいて大変助かっているというお話だった。

中学校の保護者からの意見だが、映画会について、藤沢図書館は縄文ホールなので、非常に良い環境で映画が見られる。

子供向けと大人向けに分かれているが、大人向けについては、内容によっては中学校にもチラシを配ってもいいのではないかという意見だった。

一般の方からは、資料を取り寄せてもらって、利用させていただき大変助かっている。「縄文ホール」であることから、土器や石器などをセットで、歴史的な部分で資料集めを行っていただければ、という話だった。

いろいろな企画を行っているようであるが、年齢に応じた宣伝の仕方について、若い方だとSNS（インスタグラムやXなど）を使った宣伝が大事になってくるのではないか。

1点お願いがある。ある方から文化センターの入り口が暗いという意見をいただいた。電気代の関係から節電を行っているとのことだが、住民に気持ちよく使っていただきたい。LEDにしてしまうと光量がもっと暗くなってしまいうという話もある。ロビーで素晴らしい企画展も行っており、壁紙や床を明るめの色にすることで少しでも変わるのではないか。少しずつ修繕費の手当につい

てよろしくお願ひしたい。

委員 仕事柄、地域と関わることも結構あり、行政区長とお話する機会があったのだがそのときに一関図書館でSLのイルミネーションを実施したことについて、イルミネーションのデザインを子供たちにデザインを考えてほしい、という話をされていた、と伺った。それを元に、イルミネーションを飾り付け、12月に点灯式を実施した、とのこと。また市内の業者からもLED電球の寄付があったという話も聞いた。

そういう地域に密着した図書館の運営もいいなと思った。千厩図書館でも弾き語りライブを行ったということもあった。地域の団体や個人の得意とする分野を図書館の企画として盛り込むというのはとてもいいことだと感じた。

図書館が地域に出て企画するのもいいが、図書館が地域の人を招いて企画するのもありだと思った。

SL関連では、これまで国鉄のOB会が掃除をされていたが、今回一般への参加呼びかけを企画として行ったようだ。そういう呼びかけもありだと思う。

SLのある図書館として認知度もアップしていると感じる。地域に寄り添ったほっとするような仕組み、運営を今後も期待したい。

委員 各図書館の企画展示を見てみると、既にいろんなこと全てについて網羅して展示されていて、更にたくさんの人に利用されていて、大変すごいと思っている。

いちのせき若者サポートステーションは、毎年3回職場体験を一関図書館でさせていただいている。今後もそのような体験などを広く受け入れてくれる図書館であってほしいと思っている。

委員 電子図書館の使い方講座を行ったようだが、他の小学校で行われているかについては確認できなかったが、今の子供たちは1人1台タブレットを持っているということなので、このような講座を開くことにより、子どもたちもすごく興味を持ち、電子の図書館から紙の図書館へ利用が移ることもあるのかなと思った。

障がいを持った子供たちの親に電子図書館の話をしたら、「うちの子供だったら、そういうものであれば安心して操作できるし良いと思う。少しこだわりを持った子供たちなので、図鑑や興味を持った本があったら、それをぜひ読ませてみたい」という話があった。

委員 本日に毎日のように各職員が努力しているのは頭が下がる思いである。

新聞ではほとんど毎日のように、図書館のいろんな企画展の記事が掲載されており、素晴らしいなというふうな思いで毎日新聞を眺めているが、特に学生については、二極化が進んでいるのか、本に親しむ子と、読書をしないでほとんど動画などを一生懸命検索している子がいて、我々の時代は分からないことがあれば、百科事典など、紙ベースで一生懸命調べていたが、今はほとんど皆、スマホで調べるとすぐ対応できるような環境になっている。

大学ともなるといろいろやるものがたくさんあるものだから、なかなか本人に時間がないということもあるので、やはり幼い時から活字に親しむ、本に親しむという習慣をいかに作っていくかというのが大事なのかなと思う。

毎年1年生のオリエンテーションのときには、一関図書館の職員の方も来て、いろいろ説明していただいて、利用していただきたいというような話をしっかりしてもらおうのだが、その結果こちらの学生がどれだけ利用しているかは集計していないが、不安でしっかり事務局の話は聞いているということだが、今お話ししたようにその年代によって、図書館を利用しない時期、活発に図書館利用する時期もあるのかなという感じがするので、できるだけ活字に親しむ、本に親しむという習慣をいかにつけていくかというのが大事であると思う。今後ともよろしくお願いしたい。

委員 2点お話ししたい。まず1点、移動図書館車のやまゆり号が、4月から月1回本校にもいらっしゃるということで、川崎図書館長と主任司書が学校に来て、説明をした。また、冬休み中に試運転を行い、実際に車も拝見し、とても素晴らしい車で、子供たちにとっても、いい読書体験になるのではないかといいことで、とても期待をしている。図書館利用者カードが必要ということであり、早速手続を進め、活用したいと思う

2点目について、先ほどから話題になっている電子図書館について、使い方講座というものを自分もこの資料を拝見して、来年度早速学校でも実施したいと思っている。というのは、郷土資料も電子図書館に沢山コンテンツがある。どこの中学校も、小学校も、総合的な学習の時間で川崎の郷土について調べるといいことで、図書館から川崎の郷土資料をたくさん借りているのだが、それをタブレットで見られれば、文化祭の発表のときなども、そのまま資料が映し出せるといった感じで、非常にいいと思っている。

図書館のほうから小中学校に、このような内容にも使えるというアナウンスを既にしておられると思うが、電子図書館というどうしても郷土資料というのはなかなか結びつかないので、自分も色々なところで先生にお伝えしていきたいと思うが、そういう使い方があるということで大変意義があると思った。

委員　すごく沢山の企画を考えてくださっており、いつどこの図書館に行っても楽しめるということが、自分にとっては喜びである。

その一方、その企画展をスルーして本だけ借りて帰ってしまう方もおられるので、それはもったいないと思っている。

そのためには本の貸し借りの動線をうまく利用して、必ず企画展を見ないと借りられないところに置くとか、そういうことも必要ではないかと思ったりする。

それから、観光と図書館を結びつける店舗等ができたらいいなと思う。

私達はシニア世代なので、これから休みもたくさん出てくると思う。そうするとやはり一関というのはいろいろなまちが合併しているから、各地域に魅力的な図書館と、魅力的な観光地と、魅力的なランチを食べられるお店やお菓子屋さんがある。

こういったものをうまく巡るためには、スタンプラリーがいいのではないかと思う。

今までのスタンプラリーは児童が対象だったが、その対象を例えばそのシニア世代に持ってきて、シニア世代に歩いてもらう。

それから、子供たちのスタンプラリーのときには、親が連れて行かない限り各図書館のスタンプラリーはできないから、そのスタンプラリーの期間を連休の多い時期に開催するとか、休み中に開催するとか、そういうことをすれば観光とスタンプラリーが楽しいかなと思っている。

もう一つ、自分には今3歳半の孫がいて、若い人たちが子育ての期間中に図書館に遊びに行くというような形を植えつけるのにはどうしたらいいのかと思った時に、やはり小さい子を連れて行くと、途中で大きい声で騒いだり泣いたりとかすると思う。設備面でも、キッズスペースで防音設備があると、親も子供を連れて図書館に行きやすいのではないかと思っている。平泉の図書館にはプレイルームみたいなものが図書館の脇にあり、そういうスペースがあると、小さい子を連れて行った時に、非常に助かった。

一関の図書館は、本はたくさんあっていいのだが、大きな声で泣かれたりした時になだめるのがちょっと大変だった。

それから、高齢者を対象にした時は、サロンをうまく利用して、返却は市民センター経由で返すとか、何かいろいろなこともできると思うので、世代ごとの利用者数を増やすような企画を考えていただければもっと伸びるのではないかと思う。

委員 昔は映画を見るときも、字幕スーパーでないと嫌だな、という感じであったが、最近ちょっと文字を読むのも大変な年齢になって来て、ペーパーの本を読むのもつらくなってきている。高齢者が例えばタブレットで文字を拡大して見るなど、最先端技術を活用しながら閲覧できるようであれば文章が読めるかなと思う。

さきほど防音の設備のお話があったが、高齢化に伴い耳が遠くなる人も多くなり、例えば本の感想などを図書館中で大きな声で喋るとやはり周りに迷惑がかかる、これに対してはサロンルームのようなものを作っただけであればいいのかなと思う。また、今後バーチャルリアリティや先端技術、8Kのテレビなどのコンテンツの図書館内での活用も検討した方がいいのではないかと思うが、それを考えると、防音設備の整備を併せて行うことも必要かなと思う。ただ、部屋を作るのは大変な予算がかかると思う。防音カーテンというものもあり、これであれば低予算で対策ができ、結構効果もあるのかなと思う。また、当館の駐車場に入るときに、天気も悪くて暗いときは、昼でも駐車場内がブラックアウトの状態になってしまう。現在は駐車場内の照明は時間での制御と伺っているが、光のセンサーか何かで明るさを感知して点灯するようにすれば安全性が高まるのではないかと感じた。予算が伴うことではあるが、来年度あるいは再来年度、検討していただければありがたい。

高齢化社会の進展に伴い、高齢者にやさしい図書館と、最先端の技術が進んでいくので、それに対応していくという図書館を目指していただいた方がいいのではないかと感じる。

会長 今日皆さんからいただいた意見をまとめたものを資料として事務局が作成して、次回の図書館協議会において配付する予定である。

(3) 移動図書館者サービス全域化計画について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 サービス体制に見合った、バランスの取れた職員配置を強くお願いしたい。

発言内容の資料をいただいて、基地館となる一関、大東、東山の運営協議会での内容を比較すると、ずいぶん関心の度合いに違いがあると感じた。一関は質疑なし、東山は余裕が感じられる。大東は「なんとかしてくれ」と。なぜこのような差が出てくるのかと思い、いただいた資料から分かるのは利用状況であるのでこれを見たり、職員数や時間など資料をいただいて、第1回の会議録など自分の手元にあるもので比較したが、分かったのは「大東は広い」ということ。毎日、大東地域の移動図書館車であるなぎさ号は運行していたが、他の地域はそうでもないらしい。また、学校数もまだ他の地域に比べると多い。大東図書館の職員の業務の負担増は各館長も承知しているようだ。前回の会議でも3月までに職員体制の配置を考えるということだったが、その点に関してはまだ予算内で来年度に配置を考えられるところがあるような期待を持った。

一関、東山、大東の各図書館において、特に大東は貸出冊数の50%が巡回分。東山は37%、一関は10%。具体的な業務と職員の人数について、もう一度検討していただき、是非バランスの取れた職員配置をお願いする。

(4) 一関市立図書館創立100周年、一関図書館新館開館10周年記念事業について資料に基づき事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

(5) その他

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

11 担当課 一関図書館